

今月のテーマ  
イタリアで思ったこと

市長の  
恋とトコ  
～自らの思いを皆さんに語るコラム～

4月下旬から5月の初めに  
かけてヨーロッパに行きまし  
た。最初はスイスのジュネーブ  
で国連の会議などに出席し、最  
後はバチカンでローマ法王に被  
爆地訪問をお願いしました。  
その途中に立ち寄ったのがイ  
タリア北部にあるエミリア・ロ  
マーニャ州。ここには会いたい  
人たちがいました。長崎平和特  
派員の豊島文、マッシモ・ベル  
サーニ夫妻です。  
\* \* \*  
文さんは長崎市出身の音楽  
家。夫のマッシモさんはジャ  
ナリスト写真家。二人は、折り  
鶴を折ることで子どもたちに  
平和の大切さを伝える活動を、  
10年以上前に地元の学校で始  
めました。この活動は少しずつ  
広がりを見せ、ついに州知事の  
応援でエミリア・ロ  
マーニャ州全体に  
広がることになり  
ました。そこで、私  
も州から招待を  
受けたのです。  
カステル・サン・  
ジョバンニ小学校  
では、子どもたち  
と一緒に鶴を折り  
ました。マッシモ  
さんは折り方を教



カステル・サン・ジョバンニ小学校の皆さん  
と折り鶴を通じた平和交流を行いました。

えながら、途中で「ほら、これは  
イカだよ」「これはネクタイ」  
と、子どもたちの想像力をかき  
立てます。もちろん事前に、折  
り鶴に込められた意味はしっか  
りと教えています。子どもたち  
は初めての折り紙に苦戦しな  
がらも、それぞれの折り鶴を完  
成させていきます。  
\* \* \*  
滞在中、州内のいくつかの市  
を回りました。どのまちでも、  
多くの市民や子どもたちが学  
校の先生たちが集まって、平和  
への思いを話してくれたり、  
折った折り鶴をプ  
レゼントしてくれ  
たりしました。  
\* \* \*  
城山小学校で今  
も歌い継がれてい  
る「子らのみ魂よ」  
を、子どもたちが  
きれいな日本語と  
イタリア語で歌っ  
てくれた時は、と  
ても感動しまし  
た。歌詞に込めら

れた鎮魂の思いがしっかりと伝  
わる歌い方だったのです。  
\* \* \*  
州都ボローニャから40分ほど  
山に向かって入ったところにあ  
るマルツァポット市では、戦争  
体験を語り伝えている人たち  
と会いました。マルツァポット  
は、長崎に原爆が落とされるお  
よそ1年前の1944年9月  
に、ナチスによる大虐殺が行わ  
れた町です。800人近くの  
人々が無差別に虐殺されまし  
た。家族を何人も亡くした今  
年90歳になるといふ生存者の  
かたは「思い出すのはつらいが、  
子どもたちには伝えなければ」  
と涙を浮かべながら話してく  
れました。そして「ここでも、子  
どもたちがたくさん折り鶴  
をプレゼントしてくれました。」  
\* \* \*  
後の世代が同じ体験をしな  
いですむように、悲しい戦争の  
記憶を伝えていこうとする人  
たち。遠い国の小さなまちにい  
る仲間たちとの出会いは、心  
癒やされるものでした。  
\* \* \*  
そして、長崎というまちの  
「縁」をつくる力の強さをあら  
ためて感じました。すでに城山  
小学校や山里小学校はイタリ  
アとつながっています。文さん  
とマッシモさんに感謝です。



ながさき  
フチ旅行  
世界遺産を学べる  
軍艦島資料館

長崎駅から野母崎  
方面へ車で約40分、水  
仙の里公園の近くに軍  
艦島資料館はありま  
す。  
\* \* \*  
ここでは、世界遺産  
に登録されている端島  
炭坑での採掘作業の写  
真や、当時の軍艦島で  
の生活が分かる資料を  
数多く見ることができ  
ます。  
\* \* \*  
また、3月からは島  
内の建物の設計図を  
展示しています。劣化  
が進み、既に崩壊した  
建物もある中で、当時  
の軍艦島の様子を知る  
ことができる貴重な資  
料です。  
\* \* \*  
7月に、「長崎と天  
草地方の潜伏キリシタ  
ン関連遺産」の登録が  
見込まれ、市内に2つ  
の世界遺産が誕生しよ  
うとしている今、ぜひ、  
この場所を訪れ、軍艦  
島の歴史を学んでみて  
はいかがでしょうか。